

令和3年1月31日

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：グループホーム・ひなたぼっこえびすヶ丘

施設種類：認知症対応型共同生活介護

1月の運営推進会議は、コロナウイルス感染拡大防止の為、事前にホームの状況等を書面で送り、後日皆さんから意見を聞き運営推進会議開催に変えることにした。

【入居者状況】

入居者9名（女性 8名 男性 1名）

平均年齢 90歳 平均介護度 2.6

・入退去なし ・入退院なし

【活動状況】

- ・ 散歩・日光浴・ドライブ・訪問カット
- ・ 計算ドリル・新聞折り・書写・カレンダー作り・紙バック作り・雑巾縫い
- ・ 寿司作り
- ・ ラジオ体操・体操・歩行訓練・下肢訓練・指体操
- ・ 季節行事～クリスマス会・正月用生け花教室・餅つき・初詣・福笑い

【事故・ヒヤリハット・苦情】

- ・ 事故 2件（転倒・・・1件 薬が床に落ちていた・・・1件）
- ・ ヒヤリハット 2件（転倒の危険・・・2件）

*身体拘束適正委員会

○10月に実施した高齢者虐待自己チェックの結果報告し、職員で確認・振り返りを行った。

○9月の身体拘束適正委員会で職員の言動を個々で振り返り、今後の対応を検討したが、その結果を再度振り返る。



- ・ 何度も振り返る事で、言葉遣いは良くなってきている。
- ・ 時には命令口調となっているが、言っている本人は気付いていない為、職員

同士で声をかけあう。

- ・私語も減っている

*火災時の避難訓練実施

・ホームの火災受診盤は大まかな出火場所しか表示できない為、表示を確認し出火場所を確認して回る必要がある。動転して手遅れにならないよう、普段の訓練から受診盤を確認後素早く初期消火が出来るようにする。

*面会制限再開について

・面会制限が再開となり、タブレットを準備しリモート面会が出来るようにした。3度のリモート面会があった。画面を通した面会はわかりづらい面もあり、会話が難しい為、職員が介入し会話が繋がるように対応している。

・ドア越し面会を行い、ドアで聞き取りにくい面もあるが、近くで顔が見えることから対面に近い状態ではあるがお互い複雑な気持ちも残るように感じる。

【文書照会に対する意見】

・市内に於いても感染者が増加している中、コロナ関係で困っている事や不安な事があれば連絡して欲しい。

・面会が制限される中、リモート面会やドア越し面会を行う事で入居者の方や家族の方の安心に繋げて欲しい

・身体拘束適正委員会で、職員の言動を振り返り、気付きを職員間で共有する事はとても良い方法だと思う。合わせて下記の5点を参考にして欲しい。

- ① まずは何が不適切ケアかの「気づき」
- ② 次に「個別ケア」の徹底
- ③ その上で「ケアの見直し」と「利用者主体のケアの徹底」
- ④ 次いで「事業所理念・方針と現場のケアの統一」
- ⑤ 最終的にはPDCAを機能させることで「実効性のあるケア」へと常に見直す姿勢を持つ

以上意見をいただいたので、今後活用していく。

- ・地域行事はなし